



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

1月の行事予定

Calendar table with columns for month, day, event, duration, and school meals.

※発行時の予定です。 変更にご注意してください。

大学で御指導いただいたから、今もなおお導きくださる恩師が、今年度末に退官され...

書の世界では「この人の作品は古典の香りがする」というように、古典を学んだことが感じられる作品が良い作品であると評価される。古典というのは、先人が残した優れた筆跡で、長い間評価が定まっていたもののことをいう。私が学びの対象として...

だ。覚悟を決めて自ら行動するか、受け身のまま出会いを待つか。考えることは大事だが、思いきって行動すると何かが変わるかもしれない。

数年先の未来を考えることも大切だが、千年くらいずっと先の未来を見据えた上で、今できることを考えても良いのではないかと。数値でしか評価されなかったり、すぐに結果を求められたりする現代では、美学や芸術学、哲学などの人文系の学問が軽視されがちだが、そのことに危機感を持った人たちが本やネット上で思いを記すのを最近よく見かけるようになった。

「学ぶ」という言葉は「まねぶ」とも読むように、真似をするという意味がある。芸術には定まった答えがないため、常に自分と向き合い自分で探っていくかばならぬ。学びの過程は迷うことばかりだ。私の目標は平安時代の古筆の美を千年後に伝えることだが、その使命を果たすために振り所としているのが、大学で学んだ書学であり、先生が見せてくださる研究への姿勢である。悩んだ時は古典を学び、先生ならどうするかと想像することで、芯がぶれることはなかったように思う。

江戸時代の公卿である近衛家熙は「御家流」一色の当時、流儀書道（師の型を受け継ぐ形で技法を身につけること）の考え方に疑問を持ち、中国方式でひたすら古典を学ぶことが大切だと考えた。身近に古典があるという特別な環境で育ったということにもよるだろうが、流行に惑わされず自らの使命を理解し、後世に上代様の仮名の美を伝えた家熙の功績はあまりにも大きい。同時代に生きていなくても同じ思いの人がいたことがわかるようになる。

Table of sports results for various teams like volleyball, basketball, soccer, etc.

生徒会体育局的25R荒木美咲さんの話

「生徒全員が楽しく過ごすにはどうすれば良いか考えて準備を進めてきましたが、思ったよりも大変でした。実施できるか不安でしたが、無事に終了することができたのは、皆さんがルールを守って協力してくれたのおかげだと思います。ご協力ありがとうございました。」

【生徒の感想文より（抜粋）】 14R 塩盛 実可子 お二人の話を通して私の中で特に印象に残った言葉が3つあります。一つ目は、「今後『選択』をし続けなければならない」という言葉で時々後悔しないように」という言葉です。高校3年間で私たちが選択しなければならぬのは大学や就職先といった進路のみですが、今後もっと悩むような選択を突きつけられることもあると思います。自分のした選択で苦労することがあったとしても、後々「あの選択は失敗だった」「あの時こうすべきだった」という後悔は絶対にしないようにしたいです。2つ目は、「自分の能力を最大限に生かしているかを考える」ということだと思います。ただこなすだけでなく最大限の力で取り組んでいるかというのは高校生活においても言えることだと思います。そして最後は「行動を起こすことを怖がっていない」という言葉です。行動を起こすことを怖がっていないという言葉で

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、競技者以外にはマスクをつけて実施しました。審判員もマスクをつけていました。



↑講演会の様子↓

後期クラスマッチ開催 12月11日（金）、絶好のコンディションの中、後期クラスマッチが新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮しながら実施されました。当日は、大声による応援の禁止や試合ごとのボールの消毒、ソーシャルディスタンスを保ちマスクを着用した上で行う応援など、生徒会が工夫して運営していました。結果は、以下の通りです。

財務省職員による講演会（1学年） 11月21日（土）、文理選択を控えた1年生を対象に財務省に勤務されている本校OBの2名を招いて進路後援会が実施されました。講師の先生は次の2名でした。 瀬戸 淳史 氏（62回生） \*東京大学経済学部卒業後、財務省入省。現在は財務省に在籍しながら、カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院に留学中。 住吉 宏章 氏（63回生） \*九州大学工学部エネルギー科学科、東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻卒業後、財務省入省。現在の勤務は仙台国税局調査査察部

お知らせ

先日、プリントでもお知らせしました通り、従来の電話による欠席連絡に加えて、スマートフォンやインターネットによる欠席連絡ができるようになりました。ご利用は、下のQRコードを読み取ってください。また、詳細は本校HPに掲載しております。

欠席・遅刻届けシステムURL QR code



オンライン上で自分たちの考えを発表する3人の様子

も始まらないという事実にも改めて気づかされました。この3つの言葉以外にも素晴らしい言葉がたくさんありましたが、全ての言葉を正しいとらえ方ができたわけではないと思います。でも、自分なりに受け取った言葉を大切に心に留めて、これからの進路選択、そして人生に生かしていきたいと思えます。 21人の高校生、唐鳳と語る 台湾のIT大臣オードリー・タン氏と九州7校の高校生が「世界的デジタル時代に、日本の高校生は何をすべきか」をテーマに近未来の教育について考えるシンポジウムがオンラインで11月16日に実施され、本校からも17R千代丸佳依さん、24R田上愛さん、24R岩戸夏奈さんの3名が参加しました。参加した24Rの岩戸さんは「高い目標を持った県外の高校生に刺激をもらいました。またオードリーさんのおかげで、ITをもっと身近に感じることができました」と感想を語ってくれました。新型コロナウイルス感染症の影響で県外の生徒と直接会って交流する機会がなかなかあてまされませんが、オンラインで交流ができ、良い刺激になったようです。また、現在、熊本県立熊本高等学校の主催で開催される「九州グローバルユースリーダーズサミット」に向けてオンライン上で交流を進めている生徒も10名います。新しい生活様式で今後も県外の生徒とも交流してほしいと思います。